

大相撲優勝力士に贈られてきた仏大統領杯がなくなると? フランスにニコラ・サルコジ大統領が誕生することによる影響として日本の報道番組が伝えたものだ。シラク大統領の相撲好きは良く知られている一方、サルコジ氏は「ちょんまげを結った男たちの戦いに魅力を感じない」とコメントしたことがあるとか。

週刊

コラム

それを番組では「日本への文化理解が不足している」と批判していた。

過激な発言が注目されがちなサルコジ氏だが、現実主義者の顔も併せ持っている。「サルコジ杯」が誕生するかは不明にしても、大統領としての外交方針はこれから見えてくるはずだ。

「日本の文化に敬意を払うべきだ」とのキャスターのコメントはあまりにも単純

化したものではないだろうか。

外国人の目に日本がどのように映っているのか、どこに事実誤認があるのか、どのよう伝えれば理解してもらえるのか、私たちが努力しなければならぬ。そのためには、親日派やかかわりの深い国に限らず、広く世界の文化背景や実態を学ぶことがまず求められる。



◇ ゴールデンウィークにスロバキア人の友人が日本を訪ねてきた。アメリカの大学院時代の同級生で、今回が初来日。彼が日本を知ることにあたってみてきた映画は3本。「SAYURI」「キル・ビル」、そして「ロスト・イン・トランスレーション」。どれも人気のある作品だが、残念ながら日本の実像を知るには十分とはいえない。

横須賀では戦艦三笠、鎌倉の大仏、横浜みなとみらいと観光を楽しみ、関西に

まだまだ知らない世界

も足を伸ばした。大阪ではくし揚げを大層気に入り、スシ以外の日本料理があることを知った。京都の清水寺にも出かけたが、持参していたガイドブックによると「清水の舞台」は「キヨミズ・バルコニー」。それではニュアンスが伝わらないはずだ。ゴールデンウィーク中ということもあり、名所はどこも混雑していたが、それも日本の一つの顔。伝統と喧騒が共存する日本人の暮らしも満喫してくれたと信じている。



◇ 外務省の発表によると、在日スロバキア人は228人、スロバキアの在留邦人数は159人となっている。世界中から学生が集まるアメリカだからこそ出会えたスロバキア人のクラスメート。しかし、彼らの出身地について日本で知られ

ていることは少ない。

スロバキア共和国は1993年にチェコとの連邦を解消し独立した国家である。旧ソ連邦諸国との関係も保ちながら、対米外交も推進し、イラクにも派兵していた。今年1月には外務大臣として初めて麻生太郎外相がスロバキアを訪問し、国連の対北朝鮮制裁委員会長の議長を務めるスロバキアと共同の取り組みを強化することで一致している。首都、ブラチスラバには日本料理のレストランが3軒もあり、日本企業の動向も注視されていることなど、私たちが意識している以上に東欧の関心が日本に注がれている。

日本人は海外に広く目を向けているつもりでも、まだまだ知らない世界はある。「日本文化に理解と敬意を」と唱えるのは簡単だが、日本が外からどのような見えているのか、率直な意見を真摯に受け止めることも必要だ。



東京純心女子大講師
早大大学院研究員

牧島可憐